

「イギリスのEU離脱問題」

商学部教授 広瀬憲三

2016年6月のイギリスにおける国民投票の結果は世界中で驚きをもって報道された。イギリスへの移民の流入、EUからの人の移動により国内の労働市場を奪われた、イギリスの主権を取り戻したいなどの考えが離脱を求める原動力になったといわれる。イギリスはどのような経緯で国民投票でのEU離脱の賛否を問うようになったのか、また、イギリスのEU離脱の背景にあるものは一体何であったのか。

児玉昌己論文（「英のEU離脱の衝撃—連邦的統合深化を拒絶した英国」『海外事情』第64巻9号2016年9月）、神余隆博論文（「Brexitが問いかける欧州統合の根本問題—その地政学的考察」『月間資本市場』373号2016年9月）はイギリスのEU離脱の背景と原因について述べている。両論文では、単に移民により国内労働市場を奪われたことがEU離脱の原因ではなく、根本として、イギリスはEUの単一市場としての経済的メリットは享受したいものの、「EUは国家が政治の主体者の『国家連合』であるべき」と考えており、連邦形成を深めようとするEUの理念と対立してきており、キャメロン前首相が経済的メリットを確保しつつ、連邦形成を深めようとするEUに対してイギリスの主権確保を求める交渉で有利になるよう国民投票を行うという政治的賭けに出たことに原因があると考えられる。

また、児玉論文は、イギリスが、EUからの離脱がもたらすものとして、金融パスポートなどに関するEU法からの離脱、域内関税の撤廃などがなくなる単一市場からの離脱、EU予算からの離脱、英語がEUの公用語から外れる、EUの外交安全保障、共同防衛からの離脱などを挙げ解説している。

山下英次論文（「イギリスはなぜEUからの離脱を決断したのか？」『国際金融』1287号2016年8月）は、イギリスがEUを離脱した根因を「欧英間断層」としてそれについて詳しく説明している。イギリスは、経済規模ではドイツに次ぐ2番目の地位であるが、通貨や域内の人の移動の自由を定めたシェンゲン協定に参加しないなどEU統合に積極的とは言えないと考える。離脱の根因は、「イギリスとヨーロッパ大陸諸国との間には、歴史的背景から、否定しがたい断層」の存在と考える。イギリスは15世紀にウェールズ、18世紀にスコットランドを併合して現在のイギリス連合王国の枠組みが出来上がった。その中で、「イングランド、スコットランド、ウェールズという寄せ集め国家のアイデンティティー」を作り上げる必要があり、130年の年月をかけてヨーロッパとの違いを強調しつつ国を挙げて「イギリス人」を作り上げてきた歴史があるという。そのため、EUが統合の深化を進め、一つのヨーロッパを目指す中で、歴史的

にヨーロッパとの違いを強調してイギリスのアイデンティティを作り上げてきたイギリスにとっては EU が居心地の悪い存在となったことが根因にあると主張する。

斎藤勉論文（「英国の EU 離脱が日本経済に与える影響」『地銀協月報』675 号 2016 年 9 月）はイギリスの EU 離脱によるイギリス経済への影響、日本経済への短期、中期、長期の影響について分析している。

神山哲也論文（「Brexit の金融規制・資本市場・金融機関への影響」『野村資本市場クォーターリー』第 20 巻 1 号 2016 年）は、EU 離脱後のイギリスの金融・資本市場について、金融機関が EU 加盟国の一つで EU 規制の認可を受ければそれが EU 域内の他国で営業ができるという単一市場パスポートを確保できればいいが、そうでない場合、EU 域外の金融業者は欧州本部をロンドンから他の EU 域内国に移す可能性が高くなり、イギリスにとっては影響が大きくなるし、イギリス、EU の金融・資本市場のパイ全体が縮小する可能性もあると指摘する。

岡部暘二論文（「Brexit は英国経済成長の鍵」『国際金融』1289 号 2016 年 10 月）は、イギリスの EU から離脱は、移民問題ではなく、EU 内において、フランスの力が低下し、圧倒的な力を持ち始めているドイツからの主権回復であると述べ、離脱後も「国際取引に不可欠のタックスヘイヴンを擁する『ロンドン市場』がその多様性と柔軟性を一段と強め、世界の金融・資本市場の中心として繁栄」すると考える。

イギリスの EU 離脱はイギリスをどのような方向にもっていくのであろうか。山下論文が言うようにスコットランドの独立へとつながるのだろうか。また、イギリスの離

脱によって、アメリカ、ヨーロッパ、アジアはどのような変化を求められるのであろうか。世界経済のシステムが大きく変わっていくことになればヨーロッパ諸国だけではなく、日本、アメリカも含めた世界経済全体に大きな影響を与えることになる可能性はある。いよいよ動きを始める英国の EU 離脱の行方を注意深く見る必要がある。